

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

新学期

おだやかに・くりかえし・ていねいに

学習面や行動面に支援の必要な子どもは、新しい友達、先生、教室等の環境の変化に戸惑いを感じたり、初めてのことの連続で生活リズムをつかめず不安になったりすることが予想されます。「おだやかに・くりかえし・ていねいに」を指導・支援の基本とし、学級が安全基地（居場所）になること、教師が安心基地（ホッとできる人）になる必要があります。子どもが今日の生活に満足し、明日の生活を楽しみにするような良好な信頼関係を築きましょう。

子どもと信頼関係を築くポイント

- 1 記録や引継ぎ資料等を読み込み、子どものできることに目を向ける。
- 2 実際に子どもの行動を見たり、話を聴いたりして、できることを見付ける。
- 3 子どもの好きなこと・ものを一緒に行き、楽しさを共有する。
- 4 子どもが活躍できる係活動を用意したり、特技を発表する場を設けたりして、ほめる回数を増やす。
- 5 どんな小さな約束でも必ず守る。
- 6 子どもが許可を求め、教師が「どうぞ」と伝えてから行動できる関係になる。
- 7 どんなときも子どもを好きでいること、味方であること。
- 8 子どもにとって憧れの存在になること。



キーワードは、「触る（認められていることを実感できる）、見る（子どもはいつも見てほしいもの）、声を掛ける（見ていることをしっかり伝える）、話を聴く（子どもはいつでも話を聴いてほしいもの）、ほめる・認める（一人一人の子どもに合ったほめ方をする）」です。そして、最も早く信頼関係を築く方法は、笑顔を見せることです。



とれたて直送便



【人間関係をよくするために使いたい言葉】

「ありがとう」と「うれしい」の二つです。相手が「やってくれて当たり前」という考え方でいると、二つの言葉は出てきません。子どもが自分から片付けを始めた、友達に優しい言葉を掛けたなど、少しでも適切な行動をしたら、積極的に「ありがとう」「うれしい」という言葉で気持ちを伝えましょう。二つの言葉は、良好な関係づくりに加えて、子どもの気持ちを動かし、よい行動が定着する「魔法の言葉」となります。

【今年度の統括コーディネーターの主な活動内容】

- その1 気になる子どもへの支援について、参観やケース会議を通して一緒に考えます。今年度は、能代支援学校や山本出張所等の担当者と同行訪問も予定しています。
- その2 子どもの困り感の背景を探る心理検査を実施し、園・学校と保護者への報告の他に、必要に応じて自己理解を促すために本人への報告も行います。
- その3 保護者支援として、園や学校に訪問しての保護者面談、園・学校単位のPTA研修会、「楽しい子育てQ&A」の作成等を計画しています。
- その4 小学校生活にスムーズに適應できるように、3町の5歳児を対象に「キッズクラブぐんぐん」を開講し、文字や数に親しむ活動やルールのある集団遊びを行います。
- その5 特別支援学級の教育課程の編成や授業づくりの相談に応えます。
- その6 園・学校単位に支援員の先生方の悩みに応える情報交換会を実施します。

特別支援教育に関する園・校内研修会の話提供もします。さぁー、今すぐ連絡を！